

The 21th TMC Nakasendo Maranic

第21回 中山道 マラニック

二十六年四月十四日



The 21th Nakasendou Maranic was held on Sunday Apr.13.
Charm of this course is that a then feature is just left.
Precious remains are left for many places and we can remember the Edo while reading the history. We walked approximately 18km from Kamado Station to Ooi for four and a half hours.

4月13日(日)東海マラニッククラブ呼びかけの第21回中山道マラニック「御高宿～大井宿編」に参加しました。私は、すでに中山道は、京都・三条大橋～江戸・日本橋まで69次(宿)570kmを全コース、自分の足で辿っていますが、その中でも細久手、大くて、大井、馬籠、妻籠、奈良井宿あたりが特に好きなコースです。

このコースの魅力は、当時の面影がそのまま残されていることです。あちこちに貴重な遺跡が残されており、歴史を紐解きながら江戸時代にタイムスリップすることができます。

ちょうど桜も満開の次期にぶつかり、天候も寒からず、暑からず、最高の条件に恵まれました。今回シニアクラスはJR釜戸駅から大くて宿～大井宿(JR恵那駅)約18kmを4時間半(10時半スタート、午後3時ゴール)で辿りました。





歴史の道 中山道

大湫宿の歴史

大湫宿は中山道の宿場として、江戸時代から明治時代にかけて、中山道の交通の要所として栄えた。大湫宿には、大湫神社、大湫寺、大湫小学校などがある。大湫宿の歴史は、中山道の歴史と深く関係している。

大湫宿

「おおくいしゆく」

大湫神明神社の大杉

この大杉は大湫宿のシンボルで宿時代から神明神社の御神木として大切にされてきました。推定樹齢千二百年、まさに樹木の王様といったところで、蜀山人の旅日記にも「駅の中なる左のかたに大きな杉の木あり、木のもとに神明の宮たつ」とあります。(県指定天然記念物)



歴史の道 中山道

十三峠の三十三所観音石額

大湫宿と大湫神社の間に、十三所観音の石額が並び、中山道の歴史を物語っている。大湫宿は、中山道の交通の要所として、江戸時代から明治時代にかけて、中山道の交通の要所として栄えた。大湫宿には、大湫神社、大湫寺、大湫小学校などがある。大湫宿の歴史は、中山道の歴史と深く関係している。

十三峠の三十三所観音石額

